

袋井市の中学校の保護者の皆様へ

～平成30年度 全国学力・学習状況調査 結果報告～

1 学力・学習状況調査の概要

袋井市では、全国学力・学習状況調査に加え、小学校4・5年生、中学校1・2年生を対象に、袋井版学力・学習状況調査を実施しています。それぞれの調査の実施内容は以下のとおりです。

《全国学力・学習状況調査》
文部科学省が、全国の公立小中学校の小学6年、中学3年を対象として、毎年4月中旬に国語と算数・数学、理科(3年に1回)の3教科や生活習慣等について調査を実施しています。

《袋井版学力・学習状況調査》
袋井市独自に小学4・5年、中学1・2年を対象とし、4月中旬に国語と算数・数学の2教科や生活習慣等について調査を実施しています。本調査の実施の規模は、袋井市の他に、全国の希望する自治体や学校となっています。

以下に、平成30年4月に実施された結果を掲載しました。

2 全国学力・学習状況調査の結果からみた生徒の傾向【中3】

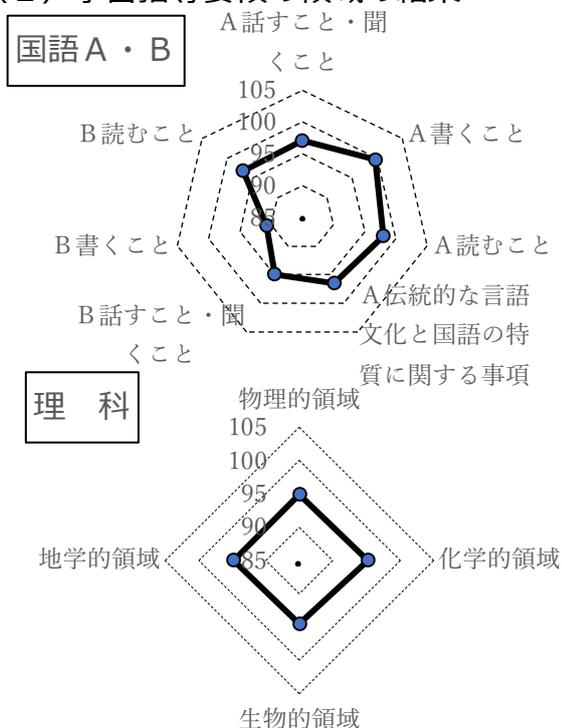
(1) 教科に関する調査の結果

表1 全国平均正答率と比べた袋井市の指数

	国語	数学	理科
A知識	98	95	95
B活用	97	94	(知識・活用)

※全国平均正答率を100とした指数で数値を表しています。

(2) 学習指導要領の領域の結果



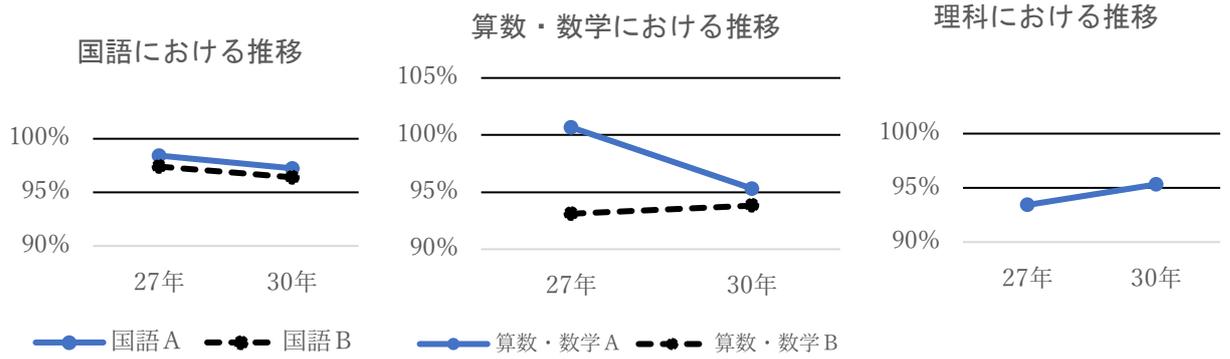
国語の課題は、文の中で正しい漢字を使うことと目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことでした。
数学では、図形の性質の理解が課題でした。また、数学Bは、無解答率が全国平均を上回っていました。



(3) 質問紙による生活習慣や学習環境の結果

- ・「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」や「地域や社会をよくするために何をすべきかを考える」等、社会参加に関する項目において、生徒の回答に意識の高さが見られます。
- ・「家で学校の授業の予習・復習をしている」と答えた生徒の方が、していないと答えた生徒よりどの教科においても高い正答率となりました。

(4) 平成 27 年度(小学校 6 年生当時)の結果との比較



※全国平均正答率を 100 としたときの袋井市の指数を比較

小学校 6 年生の時より、数学 B (活用) と理科が伸びています。反対に、国語・数学ともに、「知識」に関する問題を解く力が下がっています。学習の基礎基本の定着にも力を入れていく必要があります。



3 袋井版学力・学習状況調査の結果からみた生徒の傾向【中 1・中 2】

(1) 教科に関する調査の結果

表 2 全国平均正答率と比べた袋井市の指数

	国語	数学
中 1	95.4	96.9
中 2	98.3	97.5

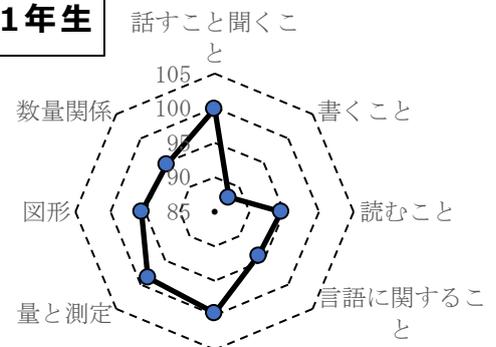
1 年生の課題

- 国語 自分の考えを過不足なく説明する。
漢字を正しく書く。
- 数学 資料を分類整理する。
図形の高さと面積の関係をグラフに表す。

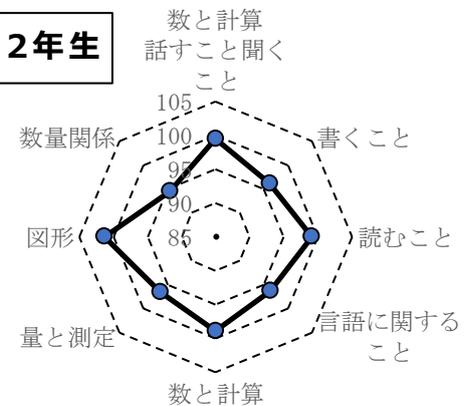
2 年生の課題

- 国語 自分の考えを過不足なく説明する。
漢字を正しく書く。
- 数学 北海道の面積を $\square \times 10^4 \text{km}^2$ の形で表す。
中心角の大きさから弧の長さを求める。

1 年生



2 年生



4 今後について

○授業で「考える力」を付けていきます。

本市の課題となる「B活用」は、これからの社会で求められる「思考力・判断力・表現力」につながるものです。生徒がこれらの力を身に付けるために、袋井市では、自分の考えをもち、考えを比較したり分類したりすることを通して、さらに考えを深める「思考ツール」を活用した授業を進めていきます。

思考ツールについて



○家庭学習の充実を図ります。

全国や袋井市の学習状況調査のデータから、家庭学習に集中して取り組む時間を確保することや取組内容を工夫することは、学力に大きく影響することが分かります。袋井市では、生徒の家庭学習の充実に向け、学校と家庭が協力できるよう支援してまいります。

今後も、未来を生きる子どもたちのために家庭と学校とが協力し合い、子どもたちのより学びや成長を支えていただきますようお願い申し上げます。

※各学校の結果の詳細は、各学校から後日、お知らせします。